

# 地域の砂防情報アーカイブ

気象記録

気象の状況、注警報発表状況

## ■気象の状況

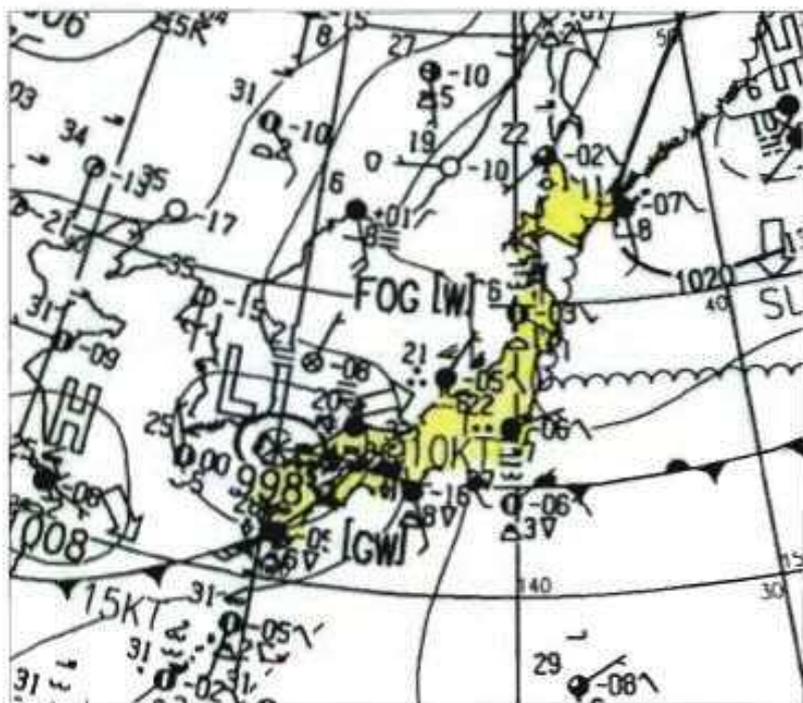
梅雨前線は、6月22日夜には大陸東岸から日本の南海上にかけて停滞。23日朝には大陸東岸で梅雨前線上に低気圧が発生、23日夜にかけて黄海に進んできた。これに伴って、梅雨前線が中国地方西部から北上を開始し、広島県では23日昼前頃から雨となった。

低気圧は24日朝にかけて黄海から日本海に進み、24日夜には北日本に移動した。このため、一旦日本海に北上していた梅雨前線が、24日の日中に中国地方を横切り、24日夜にかけて四国地方まで南下した。県内は梅雨前線の通過で、終日雨となり所々で強く降った。

25日午前中はまだ梅雨前線が南下して小康状態になった。

26日午後には、梅雨前線上の九州西海上で低気圧が発生し、27日朝にかけて中国地方を通過した。これに伴って、梅雨前線は四国南岸から中国地方まで北上、26日午後から27日午前中にかけて県下全域で雨となった。その後、梅雨前線は西日本の南岸まで南下したため、県内の雨は再び小康状態となった。

28日午後から夜にかけて梅雨前線上の低気圧が大陸東岸から黄海に進み、梅雨前線が九州南部から中国地方西部へ北上、県内は夜遅くから雨となった。29日朝には梅雨前線上の低気圧が対馬海峡に進み、梅雨前線は中国地方の西部から北上した。このため、**梅雨前線に向かう南からの暖かく湿った空気の流入が強まり、梅雨前線の活動が活発となって、県内に雷を伴った激しい雨が降った。**午後からは、低気圧が山陰沿岸をゆっくり北東に進み、暖かく湿った空気の流入が一段と強まったため、所々で雷を伴った激しい雨が数時間にわたって降り続き集中豪雨となった。30日には、梅雨前線が日本の南海上まで南下し、夕方には県内の雨はほとんど終わった。



地上天気図1999年6月29日 15時

広島地方気象台発表 注意報・警報(6月23日~6月30日)

地域	種類		発表日時	解除日時
	警報	注意報		
全域		濃霧	6/23 11:30	(切替)
全域		大雨,雷,洪水	6/24 07:40	(切替)
南部 北部		大雨,雷,洪水 雷	6/24 14:00	(切替)
全域		大雨,雷,洪水	6/24 16:35	(切替)
南部		大雨	6/25 11:10	6/25 16:00
全域		大雨,雷,洪水,濃霧	6/26 15:30	(切替)
全域		大雨	6/27 05:30	6/27 08:30
全域		大雨,雷,洪水	6/29 06:40	(切替)
全域	大雨,洪水	雷	6/29 10:20	(切替)
全域	大雨,洪水	雷	6/29 17:20	(切替)
南部 北部	洪水	大雨,洪水 大雨	6/29 21:10	(切替)
南部 北部		大雨 大雨,洪水	6/30 04:00	(切替)
全域		大雨	6/30 10:30	6/30 13:30

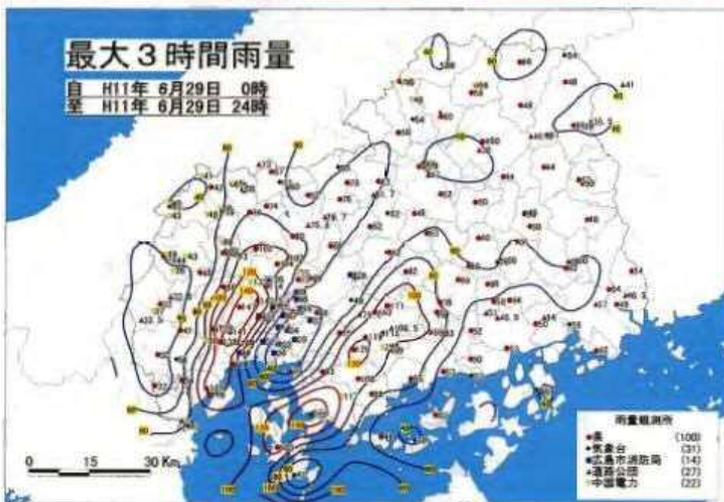
解除日時欄の「(切替)」は、次の行の注意報・警報への切り替えを示す。  
 広島県 北部:三次市,庄原市,山県郡,高田郡,世羅郡,神石郡,甲奴郡,双三郡,比婆郡  
 (全域) 南部:広島市,呉市,竹原市,三原市,尾道市,因島市,福山市,府中市,大竹市,  
 東広島市,廿日市市,安芸郡,佐伯郡,賀茂郡,豊田郡,御調郡,沼隈郡,  
 深安郡,芦田郡

「6.29土砂災害(速報版)広島県」より引用



# 地域の砂防情報アーカイブ

## ③降雨分布図



※1時間雨量図は、約5kmメッシュ上の格子点の値を各観測点の値を用いて推定し、格子上の等雨量を繋いで作成した。



※1時間雨量図は、約5kmメッシュ上の格子点の値を各観測点の値を用いて推定し、格子上の等雨量を繋いで作成した。

「6.29土砂災害(速報版)広島県」より引用

# 地域の砂防情報アーカイブ

## ■平成11年6月29日土砂災害 東広島市安芸津町での災害状況

東広島市で平成11年6月29日午前0時頃から降り始めた雨は、吉川雨量観測所(東広島市)で日雨量が163mmという大雨となった。また 最大時間雨量が62mm, 最大2時間雨量が106mm, 最大3時間雨量が126mmに達した。豊田郡安芸津町(現東広島市安芸津町)木谷ではがけ崩れが発生し、犠牲者1名の被害を出した。

### 【東広島市安芸津町木谷での被災状況】犠牲者1名】



1. 崩壊発生斜面全景



2. 崩壊斜面状況



3. 崩壊斜面上部より見た被災状況



4. 土砂が流入した被災人家

「6.29土砂災害(速報版)広島県」より引用

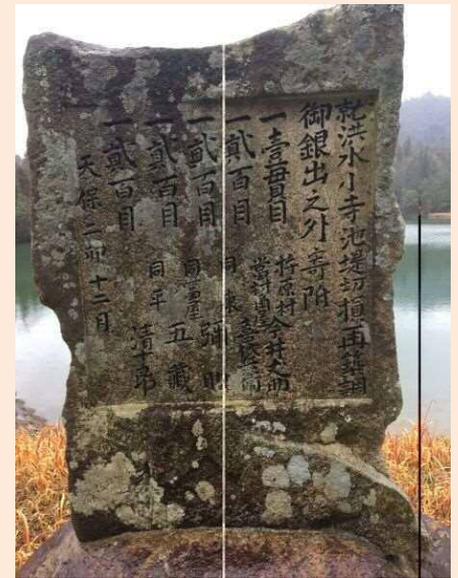
# 地域の砂防情報アーカイブ

石碑  
東広島市高屋町版  
登録情報

## ■小寺池災害復旧拡築記念(東広島市高屋町溝口)

枕崎台風は、終戦直後の昭和20年(1945年)9月に日本を襲った台風であり、枕崎に上陸したときの中心気圧は916hPa。室戸台風、伊勢湾台風と並んで昭和の三大台風のひとつに数えられている。被害の最もひどかったのは広島市、呉市及びその周辺で、県全体では犠牲者2,012名を数える。西高屋村(現:東広島市高屋町)でも土石流が発生し、小寺池が埋没し濁流が堤防を越え被害を出した。また、上流には江戸時代に発生した洪水により同池が決壊し、堤防の復旧工事が完了したことから、江戸時代天保2年(1831年)に石碑が建立されている。

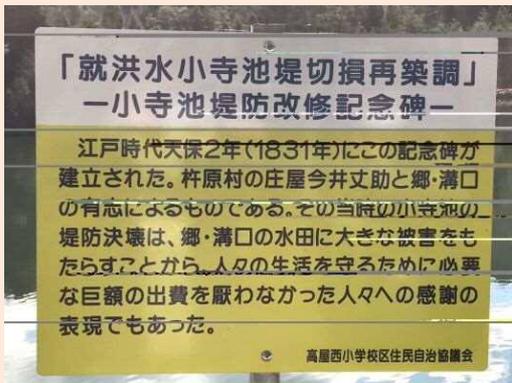
(石碑の案内看板より 所在地:東広島市高屋町溝口)



1. 石碑①



2. 石碑②



3. 石碑の案内看板①



4. 石碑の案内看板②

写真提供:藤本理志氏, 小山耕平氏, 熊原康博氏